

インターネット会議システムを用いた地域医療支援プログラム ～「プライマリ・ケア レクチャーシリーズ」～

森崎龍郎¹⁾、大西幸代¹⁾、木村眞司²⁾、杉澤憲³⁾、明石浩史⁴⁾、
辰巳治之⁵⁾、佐々木暢彦³⁾、江本従道¹⁾、山本和利¹⁾

札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座¹⁾、松前町立松前病院²⁾、町立厚岸病院³⁾、
札幌医科大学附属総合情報センター⁴⁾、札幌医科大学医学部解剖学第一講座⁵⁾

BizMatePro™の使用に必要な機材はこれだけ！

教育プログラム名：

**「地域の命を守る医療人養成プログラムの実践
～北海道における医療過疎地ゼロを目指して～」**

札幌医科大学附属病院

【このプログラムの概要】

広大な医療圏を抱える北海道においては、医師の偏在が地域の医療過疎を増大させ、過疎地に暮らす人々に不安を与えるなど、社会問題となっている。

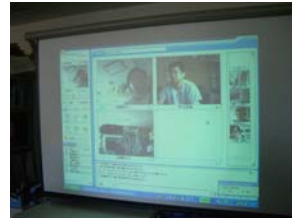
この取り組みは、大学附属病院の教育機能を活用し、医師が地域に定着するシステムを確立することにより、こうした課題の解決に寄与しようとするものであり、特に地域医療の支援に従事する大学病院からの医師のスキル向上と不安解消に重点を置いたプログラムとした。すなわち、心肺蘇生や患者搬送などの救急医療の実践教育を実施する「緊急時対応能力養成コース」、勤務先地域の特性と医師の専門性を踏まえたテーラーメイドの集中教育を実施する「モジュール別コース」などの事前トレーニングを後期臨床研修と一体で行い、着任後はITを活用したテレビ会議システムや医療情報の提供を行うサポート体制を整備し、地域のニーズにあったプライマリ・ケア医の着実な要請を目指すものである。

【「プライマリ・ケア レクチャーシリーズ」の目的】

このプログラムにおいて、地域医療に従事する医師の日常支援システムとして位置づけられるものであり、日常診療に有用なプライマリ・ケア領域に関するup-to-dateな知識を、地域医療に従事しながら身近に得られ、さらに遠隔地においても日常的に双方向性の相談体制が確保できるシステムを構築することを目的としている。



- ADSL以上のインターネット環境！
 - パソコンとWebカメラとヘッドセット(またはマイクとスピーカー)だけ！(それ以外の特種な機材は不要)
 - 通信費不要！(インターネット接続料金だけで、通話料など負担なし)
 - いつでもどこでもインターネットがあれば接続可能！
- 参考：飛売元 株式会社アド・ホック
http://www.adnet.or.jp/adhoc/index.html



教室ではプロジェクターで投影して皆で視聴しています。

【対象・方法】

参加対象は、この「レクチャーシリーズ」へ参加を希望する、北海道を主とした医療機関および個人とした。

この「レクチャーシリーズ」は、MC GLOBAL社のインターネット会議ソフト「BizMatePro™」を用い、毎週木曜日7：15～8：30にリアルタイムでプライマリ・ケア領域に関する講義および質疑応答を行っている。講義は毎週1回につき2テーマを行っており、今年度は約90項目の講義を予定している。

またこのレクチャーとは別に、毎週水曜日朝7：30～8：00の30分間、「水曜朝の症例検討会」と称して同システムを用いた症例検討会の開催し、実際の症例における診療上の問題解決に役立てようとの試みも行っている。

【結果】

使用ソフトについては動画・音声とも概ね明瞭で、質疑応答や画像の提示も可能であり、講義形式の教育には十分な機能を有する。また、受講者側の必要機材はコンピューター端末とWebカメラ、マイク・スピーカー（もしくはヘッドセット）のみであり、インターネット環境さえ整っていれば特別な通信費用や特殊な機材を必要としないためシステムの展開が容易である。

【考察（今後の課題）】

- 受講者はどのような内容を特に有用と感じているのか？
 - この「レクチャーシリーズ」へ参加することで得られるものは何か？
 - 受講者の真のニーズは何か？
 - 地域医療支援や地域医療への医師の定着に本当に役立つのか？
 - このインターネット会議システムのその他の可能性は？
- など

これらについて今後調査・研究を行い、さらに改善・発展させていきたいと考えている。

【結語】

インターネット会議システムを用いた教育は、地域医療支援に有用な手段となる可能性がある。

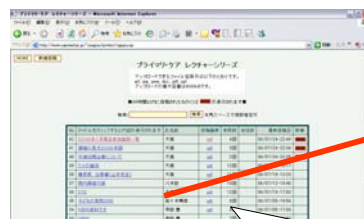


2006年5月15日版北海道新聞でも取り上げて頂きました。

このレクチャーシリーズの基本的方針

- 対象は「学生・研修医・地域の現場の先生」で、「教科書的内容ではなく実践的内容」を
- 専門医の先生には可能な限りプライマリケアの現場(送る側)に何をしてほしいか、どこまで知っていてほしいか、という点を
- 研修医、現場でプライマリケアをしている先生には、できるだけ現場で困っている中での問題点、症例を含めた実践的なレクチャーを

若手もベテランも、プライマリケア医も専門医も、診療所も大学スタッフも、誰もが気軽に参加し、発言できる会にする、ということをお大事にしています。



当講座ホームページ内の掲示板から、レクチャーのハンドアウトをダウンロードできるようにしています。(パスワードが必要です。) また参加者メーリングリスト(PCLS-ML)を作り、連絡事項などの伝達に利用しています。

「プライマリ・ケアレクチャーシリーズ」 参加施設一覧(2006年7月現在)

地域	公立	私立	施設名称・個人名	地域	公立	施設名称・個人名
1	札幌市	国立	札幌医科大学	19	網走市	公立 網走総合病院
2	札幌市	民間	札幌医科大学	20	釧路市	民間 釧路中央病院
3	札幌市	民間	札幌医科大学	21	釧路市	市立 市立総合病院
4	札幌市	民間	札幌医科大学	22	帯広市	民間 帯広総合病院
5	札幌市	民間	札幌医科大学	23	帯広市	市立 市立総合病院
6	札幌市	民間	札幌医科大学	24	帯広市	国立 国立総合病院
7	札幌市	民間	札幌医科大学	25	帯広市	国立 国立総合病院
8	恵庭市	公立	公立恵庭病院	26	苫小牧市	民間 苫小牧総合病院
9	帯広市	国立	帯広市立総合病院	27	帯広市	公立 帯広市立総合病院
10	帯広市	民間	帯広市立総合病院	28	帯広市	国立 国立総合病院
11	夕張市	市立	夕張市立病院	29	苫小牧市	民間 苫小牧総合病院
12	恵庭市	国立	公立恵庭病院	30	苫小牧市	民間 苫小牧総合病院
13	帯広市	民間	帯広市立総合病院	31	帯広市	国立 国立総合病院
14	網走市	公立	網走市立総合病院	32	帯広市	国立 国立総合病院
15	網走市	私立法人	網走市立総合病院	33	帯広市	国立 国立総合病院
16	名寄市	市立	名寄市立総合病院	34	帯広市	国立 国立総合病院
17	知内町	国立	知内町立総合病院	35	帯広市	国立 国立総合病院
18	むかわ町	国立	むかわ町立総合病院	36	帯広市	国立 国立総合病院



ハンドアウトの例：「関節痛」

札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座：<http://web.sapmed.ac.jp/chii/index.html>
(当講座のホームページでも、このプライマリ・ケアレクチャーシリーズの案内を行っています。)
問い合わせ：森崎 morisaki@sapmed.ac.jp 大西 sohnishi@sapmed.ac.jp